

- 1 単元名 社会生活の中から課題を決めて、意見文を書こう
「反対意見を想定して書こう」（東京書籍2年）

2 単元の見目標

- 文章の構成や材料の活用の仕方などについて、自分の考えを広げようとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- 目的や意図に応じ、自分の意見が相手に効果的に伝わるように書くことができる。(書くこと)
- 目的や意図に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解できる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

(1) 生徒観

本学級の生徒に対して、「落語の演じ方を選択し、なぜそのように演じるのかを、本文を根拠に殿様の気持ちを想像して書く」という実態調査（平成29年7月13日実施、第2学年＊組＊人）を行った。その結果、本文を根拠として、自分の考えと適切に結び付けることができた生徒は＊人であった。また、本文を根拠として、自分の意見を書くことができなかった生徒は＊人いた。本文を根拠とはしているが、根拠と自分の意見との結び付きがなかったり、根拠が適切でなかったりした生徒は＊人であった。これは、これまでの書くことの指導において、根拠の適切さを考えて、自分の意見がよりよく伝わるように書く学習活動が不十分であったことに起因する。そのため、これからは、目的や意図に応じ、自分の意見が相手に効果的に伝わるように書く指導が必要であると考え。

(2) 言語活動とその特徴

本単元の言語活動として、第2学年「B書くこと」の言語活動例(2)イ「多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。」を受けて、中学校第2学年「反対意見を想定して書こう」の学習において、「社会生活の中からテーマを決めて、意見文を書く」という活動を設定した。社会生活の中から課題を決めて、意見文を書く際には、構想段階で主張・根拠・理由づけが明確であり、分かりやすい構成になっているかどうか、交流活動を取り入れることによって構想を吟味することができ、相手に効果的に伝わるように書く能力を身に付けることができると考えた。したがって、本単元でねらう「事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。」（B書くことウ）を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

(3) 教材観

本教材は、「異なった二つの意見が対立するような問題」について、自らの意見を根拠とともに主張するだけでなく、対立する意見を意識し、それに対する反論をも組み込んで書く方法を習得することを目的としている。自分の意見が、相手に効果的に伝わるように書くには、どのようにすればよいのかを考えることとなる。

以上のことから、「反対意見を想定して書こう」は、目的や意図に応じ、自分の意見が相手に効果的に伝わるように書く学習をするのにふさわしい教材であると考え。

(4) 指導観

「社会生活の中からテーマを決めて、意見文を書く」という言語活動を設定する。まず、目的や意図に応じて、自分の意見が相手に効果的に伝わるようにするには、どのようにすればよいのかについ

てモデル文を活用して理解できるようにする。次に、意見文を書くための構想を、構想メモにまとめる活動を行う。その際、自分の構想が、目的や意図に応じたものになっているか、また、自分の意見が相手に効果的に伝わるようになっているかについて、交流活動を通して吟味できるようにする。そして、構想メモを活用して意見文を書き、自分の意見が相手に効果的に伝わったかどうか、相互評価をして確かめることができるようにする。

これらの学習を通して、目的や意図に応じ、自分の意見が相手に効果的に伝わるように書く能力を付けていきたい。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・文章の構成や材料の活用の仕方などについて関心を持ち、自分の考えを広げようとしている。	・意見が効果的に伝わるように、根拠を具体的に記述したり、他の立場への反論を盛り込んだりするなど、目的や意図に応じて書いている。	・目的や意図に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解している。

5 単元の指導計画（6時間扱い）

次	時	学習内容	評価規準
一	1	・モデル文を活用して、自分の意見が相手に効果的に伝わるように書くための手立てを理解する。	【言語についての知識・理解・技能】 ・目的や意図に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解している。
	2	・人間、社会、文化、自然などの分野から、興味や関心のある事柄を整理して、意見文のテーマについて考える。 ・モデル文を活用して、意見文の書き方を理解する。	【国語への関心・意欲・態度】 ・文章の構成や材料の活用の仕方について関心を持ち、自分の意見が相手に効果的に伝わるように書こうとしている。
二	1	・社会生活の中から決めた課題についての情報を集め、構想メモを書く。 〈図書室で実施〉	【書く能力】 ・資料から自分の意見とつながる情報を探し、主張・根拠・理由づけが明確になるように、構想メモを書いている。
	2 (本時)	・主張・根拠・理由づけが明確であり、分かりやすい構成になっているかどうか、交流活動を通して考える。	【書く能力】 ・自分の意見が相手に効果的に伝わるようにするために、構想メモを書いている。
三	1	・構想メモを基に、意見文を書く。	【書く能力】 ・目的や意図に応じ、自分の意見が相手に効果的に伝わるように書いている。
	2	・意見文を読み合い、互いのよさを評価する。	【書く能力】 ・文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げている。

6 本時の学習

(1) 目標

自分の意見が相手に効果的に伝わるようにするために、構想メモを見直すことができる。

(2) 準備・資料

構想メモ、付箋、交流チェックシート、ホワイトボード、マーカー、単元シート

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点と評価（評価は㊦）
1 本時の学習課題をつかむ。 自分の意見が相手に効果的に伝わるような構想になっているかを確認しよう。 2 前時までの学習を振り返る。 キーワードの確認 ・目的、意図 ・構成の工夫（頭括・尾括・双括） ・三点セット（主張・根拠・理由づけ） ○反論の先取り ○体験 ○引用（信頼できるデータ） 3 交流活動の進め方を確認する。 【流れ】 ①テーマの確認 ②目的や意図の説明 ③効果的に伝えるための手立て ④意見交換 4 交流活動を行い、構想を吟味する。 (1) グループで交流する。 (2) 全体で交流する。 【③効果的に伝えるための手立て】 ・双括型で構成することで、自分の意見が相手の印象に残るようにした。 ・自分の体験談を根拠とすることで、共感してもらえるようにした。 【④意見交換】 ・根拠と理由づけのつながりが伝わりにくい。具体的に説明した方がよいのではないか。 ・反対意見の立場からも述べてあるので納得しやすい。 5 構想メモを完成させる。 6 本時の振り返りをする。 ・誰に対して、何を伝えるために書くのかを、明確にすることが大切であると感じた。 ・主張・根拠・理由づけ、それぞれのつながりが適切かどうか大切。	・黒板掲示物を貼り、本時の学習課題を読み、本時の流れを確認して、見通しをもてるようにする。 ・前時までの学習で出てきたキーワードを確認して、学習内容を振り返る。これまでに確認したキーワードを交流活動の際に活用するように助言する。 ・今回の学習のポイントである言葉を整理できるようにする。 ・前時までにまとめた、「書くワザ」プリントを見直して、振り返りができるようにする。 ・意見文の構想が、相手に効果的に伝わるように工夫されているかどうかを確認するために交流活動することを伝え、発表の準備ができるようにする。 ・交流チェックシートを配付し、相互評価の観点を確認させることで、交流のポイントを理解できるようにする。 ・発表者は、構想メモをグループの友達に見せながら、自分の意図が相手に効果的に伝わっているかを交流活動を通して確認できるようにする。 ・構想メモが、相手に効果的に伝わるような構想になっているか相互評価をしながら、交流活動を進めるようにする。 ・交流チェックシートや「書くワザ」プリントを参考に、友達の工夫点に気付くことができるようにする。 ・グループで交流する際、一人一人の構想メモを検討する時間を十分に確保することで、多様な意見に触れることができるようにする。 ㊦自分の意見が相手に効果的に伝わりやすくするために、構想メモを見直すことができる。 ㊦（観察、構想メモ） ・グループでアドバイスされた点や、全体で確認したポイントを踏まえて、構想メモを仕上げる。加筆、修正した所を分かりやすくするために、色ペンを使うよう指示する。 ・単元シートを活用し、本時の学習を振り返る。自分の意見が相手に効果的に伝わるように書くには、何が大切なのかを自分の言葉でまとめることができるようにする。 ・次時は、意見文を書く活動を行うことを伝え、本時とのつながりを意識できるようにする。